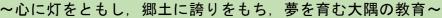
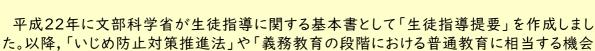
#### 一隅を照らす山と野と渚の教育



# 「魅力ある学校づくり」の推進

	令和4年12月に改訂された生徒指導関係の冊子とは。
	あなたの学校における「魅力」とは。
7	「鮭力なる学校づくり、ブナ切にしているマレンけ



の確保等に関する法律」の成立等,生徒指導をめぐる状況は大きく変化しています。これらのことから「生徒指導提要」は、12年ぶりに改訂されました。

生徒指導提要には、生徒指導の理論・考え方、実際の指導方法等について、時代の変化に即してまとめられており、生徒指導に関する学校・教職員の基本的なことが書かれています。学習指導要領解説とともに多くの学校関係者に活用されることを願っています。

生徒指導の目的について、「生徒指導は、児童生徒一人一人の個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支えると同時に、自己の幸福追求と社会に受け入れられる自己実現を支えることを目的とする。」と記載されています。生徒指導についての考え方は、ご存知のとおり教職員が「させる」生徒指導から、児童生徒自身が主語となり、教職員がその活動を「支える」生徒指導へと転換されています。

さて私たちは、一日の3分の I ほどの時間を学校で生活しています。あなたの学校の楽しさや喜び、成長といった「魅力」はどのようなものがありますか。その魅力は、誰がつくり出していますか。

今回,紹介する「魅力ある学校づくり」の取組とは,深刻な課題を抱えている特定の児童生徒への指導・援助(困難課題対応的生徒指導)ではなく,全ての児童生徒の発達を支える(発達支持的生徒指導)取組です。不登校児童生徒には個別支援を継続し,不登校ではない児童生徒には集団支援をして,不登校の未然防止に取り組むことです。これまで実践的に「魅力ある学校づくり」に取り組んだ学校からは,新規不登校児童生徒を減少させることで不登校の総数が減ったことが報告されています。学校の魅力を児童生徒と教職員が一体となって創出していくことが,新たな不登校を防ぐことにつながっています。

#### 【魅力ある学校づくりのキーワード・ポイント】

- ①「発達支持的生徒指導」と「未然防止」を意識する。
- ② 不登校を「継続数」と「新規数」で考える。
- ③ 「意識調査」を基に教育活動を振り返る。
- ④ 年3回のPDCAサイクルで実践する。
- ⑤ 授業に内在化する生徒指導を意識する。

現在の教育活動が、子供にとって本当に魅力的なものになっているか、「何が子供たちを学校に来させているのか」を考え、学校は、外の世界には無い学校の魅力を構築する必要があります。具体的には、児童生徒にとって安心できる場所、自己存在感や充実感をつくり出す教職員による「居場所づくり」と、児童生徒が主体的・共同的な活動を通して、「絆」を感じ取り、紡いでいくための「絆づくり」に取り組むことです。裏面にて、具体的な取組方法(上記③、④)について説明します。あなたの学校の「魅力づくり」に取り組んでみましょう。



# 「魅力ある学校づくり」に向けた四つのステップ

## STEP

## 児童生徒の声を聞くアンケートの実施

児童生徒の声を聞くためのツールとして右の意識調査を実施します。

厳選された四つの質問項目を,ロイロノートやGoogleフォーム等を用いて集計することで,業務負担感を増やすことなく実施することができます。

ア,イは人間関係や学校生活・行事等 に対する意識を計ることができる項目で, ウ,エは学習状況への意識・授業改善へ の状況等を計ることができる項目です。

#### 【意識調査】

現在の学校生活について、あなたはどのように感じてますか。当てはまるものを右の1から4の中から選び、その番号にOを付けてください。

		当てはま る	といえば	どちらか といえば 当てはま らない	
ア	学校が楽しい	1	2	3	4
1	みんなで何かをするのは楽しい	1	2	3	4
ゥ	授業に主体的に取り組んでいる	1	2	3	4
I	授業がよくわかる	1	2	3	4

【意識調査のアンケート】

# **STEP2**「見積もり値」と「アンケート結果」の"ズレ"に着目した分析

Step I で集計したアンケートの強肯 定的な意見(「I」と回答)に着目し,教 職員が考える学校の魅力と児童生生 が考える学校の魅力の"ズレ"から,徒 学校等の状況に合わせて,重点項目を 絞って取り組むこととなります。その際, 改善するための具体的な取組を考えて から,どのくらい数値がよくなるか見積 もることで,強肯定的な回答が更に増 加することを目指します。

	100	2.004 MAA.	3.4	3,1	3.3	3.1
点	1	みんなで何かをするのが楽しい	3.0	3.0	3.1	3.2
枝	ゥ	授業に主体的に取り組んでいる	3.0	3.0	3.1	3.0
	Τ.	授業がよく分かる	3.0	3.1	3.0	3.0
-		こだわる項目に〇(1~2項目)	1	理由/学	(年×干)	
-	1	こだれる毎日に〇/1~2億日)		700 L / An	de . ( T )	
	9	こだわる項目に〇(1~2項目) 学校が楽しい	· 不登校報	理由(学	年メモ) 改善を図る	o .
課	D 1		· 学習者:	動の生徒の 主体の授業	改善を図る づくりを通し	
課期	चि 1 7	学校が楽しい	<ul><li>学習者:</li><li>本的な学</li></ul>	面向の生徒の	改善を図る づくりを通し 着を図る。	て、基礎的

【ある学校の取組の記録】

### STEP3

## 具体策の確実な実施

Step2を通して「これをやりましょう」と決めたことは、次の意識調査まで全教職員でしっかりと取り組むことが大切になります。

確実な取組を行ったからこそ見えて きた課題に対し、再発見したことなどを 基に更なる工夫改善を加え、取組の一 層の浸透を図ることこそが「魅力ある 学校づくり」であると言えます。





【各学校の取組について意見交換している様子】

# 年3回のPDCAサイクルによる取組の点検・見直し

Step I~3の取組を年3回位置付け、 PDCA サイクルをしっかりと回し続ける ことが大切です。

絶えず取組を見直し,児童生徒と教職員の意識の"ズレ"を解消していくことで,学校が児童生徒にとってより安全・安心な「魅力ある学校」(=絆づくり,居場所づくり)につなげることができます。

